


学校 通信 4-9	 かけはし	教育目標 ○学び合う子 ○つながり、 支え合う子 ○たくましい子	武蔵村山市立 第九小学校 校長 吉成かおる 令和5年1月10日
-----------------	--	--	--



強い心を育てる

校長 吉成かおる

明けましておめでとうございます。地域や保護者の皆さまにおかれましては、よいお年を迎えられたこととお慶び申し上げます。今年は卯年。子供たちが大きく飛躍、向上できる年になるよう、教職員一同、力を尽くしてまいります。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

私事ですが、年末に8年間も町のゴミ拾いを続ける大手企業の社長さんが書いた本を読みました。なかなかできないゴミ拾いを何年も続けたことに敬意を表すると同時に、秋に1,2年生と行った羽村動物園での出来事を思い出しました。

それは、楽しかったお弁当とおやつの時間が終わり、皆がリュックを背負って立ち上がった時のことでした。ふと、下におやつの袋が落ちているのを見つけたので、「だれか、ゴミを落としているよ」と声をかけました。すると、子供たちが、「自分のじゃないよ」、「そんなお菓子は食べてない」とロク々に言います。風のある日だったので、隣のグループのゴミが飛んできたようでした。誰も拾わないので、拾おうかと近づいたとき、そばにいた2年生の子が、「ぼくの袋に入れればいいよ」と言って、背負っていたリュックを下ろし、奥から自分のゴミ袋を出してそのゴミを入れると、何事もなかったように2年生の列に並んだのです。



私はとても驚きました。自分が出したゴミは自分で持ち帰ろう、とは言いますが、人のゴミまで持ち帰るとするのは誰にでもできることではありません。しかし、この子は、「誰のものかを探してゴミを落としておくより、拾った方がいい」と判断し、それをすぐに実行したのです。そうすれば動物園はきれいに保たれ、皆が気持ちよく過ごせることは言うまでもありません。「周りかどうだろうと、自分が正しいと思ったことをやる」という、大人でもなかなか難しいことを、2年生がいつも簡単にやったことに感服しました。

学校教育のよさは集団での学び合いです。友達の行動を見ながら、自分にはなかった考えや判断に気付き、自分の行動の選択肢を広げることができます。この2年生の行動を見ていた子供たちの中には、「誰かがやった方が良いものは、自分がすすんでやる」という選択肢に気付いた子がいたことでしょう。

これからの学校生活でも、子供たちはいろいろな場面に出会うと思います。そのとき自分はどの行動するかを選択できるのは自分しかありません。ゴミを拾い続ける社長さんとこの2年生を重ねながら、自分が正しいと思うことをやり抜く強さをもてる子供たちを育てられるよう、これからも取り組んでいきたいと思ったお正月でした。